

眼下に破壊される古里

津波の猛威この目で

石巻の「日和山」は、石巻市内や北上川を俯瞰（ふかん）できる標高60メートルの小高い山。ここから見る広大な市内は、所々に形ばかりのビルや家屋が建っているものの、ほとんど廃墟となっている、うず高く積み重ねられたがれきがあちこちにあるが、全体の処理はほとんど進んでいない印象だ。建物の再建着手まであ



横転して流された3階建てビル（女川町）

と何年かかるか、暗たんたる思いだ。震災当日、この日和山公園を目指して多くの市民が避難してきたと聞く。破壊されていく古里の町を見守った心情を察すると言葉がない。「すこやかに育て心と体」。女川港に向かう途中にあつたぼつんとたたずむ廃屋の屋上に掲げられていたスローガン。小学校だっ

たのだろうか。窓枠もガラスもすべて破壊されていた。港からならかな坂を数キロ上がった所にあるのに、20メートルを超える津波がここまで駆け上がった。坂の途中にある住宅地はコンクリートの土台を残すだけ。津波がすべてをさらっていった。

こんな光景を見ていたら、女川港の惨状はある程度覚悟していたが、栈橋に近づくに従って言葉を失った。すべての建物が破壊され、栈橋は地盤沈下で先端が海面に浸かっていた。近くの3階建ての住宅が横倒

痛々しい校舎のスローガン

横転ビルに赤い車

石巻市内を走行中の午後2時46分、被災者を哀悼するサイレンが一斉に鳴り響いた。巨大地震が発生した半年前、大津波が石巻湾に到達したのは、それから50分後だったと聞く。10メートルとも20メートルと言われる大津波が、市街地を一瞬のうちに飲み込んだ。

あらためて石巻市内を襲う大津波の映像をPCで見ると、ゆっくりと押し寄せて来た津波が瞬く間に水位を上げ、恐ろしい勢いで船や住宅や車を押し流した。標高60メートルの日和山

しになり、1階車庫にある車が放置されていた。外壁に「100歳健康を応援します」の広告がむなししい。岸壁に近い地区のがれき撤去はかなり進んでいるように見受けられる。5メートルを超えるがれき、無数の廃車が積み上げられていた。しかし、地上で動くものは作業車だけで人の気配はしない。

強。強い揺れには違いないが、津波さえなかったらこれほどの被害はなかった。それにしても避難した住民は再び女川に戻ってこられるのだろうか。町を見渡しみると、平坦な土地が広い。たぶん徐々に埋め立てたような地形だ。明治以降、今回を入れて4回の大地震に見舞われている。平均30年に1回だ。住宅地は高台に移転したいという声が強いのでは。果たして可能だろうか。暗たんたる思いで女川を後にした。

(原 征)

に上る。茶褐色に変わり果てた市街地と石巻湾が一望できた。神社事務所には国内や海外の子どもたちから寄せられた折り鶴が飾られ、NHKが震災半年の特別番組を中継していた。

土台だけになった市街地の中でひと際、目立つ4階建ての石巻市立病院があつた。大津波の直撃を受けて被災し、病院の窓ガラスはすべてぶち抜かれた。救急医療の入り口も鉄筋がむき出しになり、手つかずで放置されたままだ。隣の調剤薬局が入っていたと思われ

る建物は大きく傾き、地盤沈下でできた津波の「たまり池」の中に一部が崩れ落ちていた。石巻市から女川町に向かう途中、3階建ての焼けただれた小学校の校舎が見えた。犠牲者を弔っているのか喪服姿の人影も。地震発生後、避難してきた周辺住民の車が、津波で校舎側に押し流され、ガソリンに火がついて火災になったという。すすけた校舎の屋上に掲げられた「すこやかに育て心と体」のスローガンが痛々しい。

女川町に入ると、横倒しになったビルがいくつも目につく。尻を出してビルが

転倒するなど信じられない光景が続く。地元民によると、ビルは引き波などで10メートル近く流されたという。岸壁脇の4階建ての横転ビルには1階が駐車場になっていたのか、赤い乗用車がのめり込んだままだ。女川港の岸壁脇の町立観光物産施設「マリンプル女川」は岸壁沈下で建物1階が海水に洗われている。女川町は高台以外は全滅と聞いていた。どう復旧、復興するのか。見渡したところ、工事のつち音は聞こえない。「がんばれ東北」と、ありきたりな応援歌しか言えないのがもどかしい。

(富田 信吉)



海水に洗われる女川物産館